

国立大学法人信州大学の平成24年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

信州大学は、信州の豊かな自然と文化の中で、自然環境の保全、新しい文化の創造、人々の健康と福祉の向上、産業の育成と活性化などを目指し、優れた教育研究を行うことによって、大学に求められている社会的使命を果たすことを理念としている。第2期中期目標期間においては、信州の歴史と立地条件を活かした個性豊かな学部が協働し、総合力と相乗効果を発揮し、世界へ飛翔する「オンリーワンの魅力あふれる地域拠点大学」の構築を目指すことを目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、信州大学改革実現に向けた取組等を推進するため、特命戦略担当の副学長を新たに3名任命し、併せて、大学改革推進会議を設置し、大学院5年一貫の教育コース、グローバル研究機構（仮称）の設置計画等を策定するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

（①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化、③情報公開や情報発信等の推進）

平成24年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 教育・研究・地域貢献活動の成果物を蓄積・発信する「信州共同リポジトリ」を長野県内の高等教育機関（参加14機関）の中心になって構築するとともに、同リポジトリの公開を始めており、公開件数は19,903件（信州大学14,254件、他機関5,649件）となっている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載16事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

（①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制）

平成24年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 信州 TLO と知的財産の創出支援等に関する委託契約を締結し、技術移転を推進するとともに、新技術説明会などにより企業とのマッチングを進めた結果、技術移転契約件数は 190 件と前年度の 2.5 倍、技術移転収入は 1,365 万円と、過去最高の成果となっている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 9 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

(①評価の充実)

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 大学の社会的責任を意識した大学運営の重要性から、『信州「知の森」づくり』に向けた大学の活動をまとめたパンフレット「信州大学 USR レポート 2012」を発行している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 2 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(①施設設備の整備・活用等、②安全管理及び就業環境、③法令遵守)

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 東京医科歯科大学、福島県立医科大学、北里大学、上智大学及び沖縄科学技術大学院大学と連携し、e-learning を活用した教育カリキュラムを通して、大学院生に倫理教育を行う「研究者育成の為の行動規範教育の標準化と教育システムの全国展開 (CITI Japan プロジェクト)」を代表校として開始している。

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

- 職務上行う教育・研究に対する教員等個人宛ての寄附金について、個人で経理されていた事例があったことから、学内で定めた規則に則り適切に処理するとともに、そ

の取扱いについて教員等に周知徹底するなどの取組が求められる。

- 附属病院において、患者の画像データを保存していた SD メモリカードを紛失する事例があったことから、再発防止とともに、個人情報保護に関するリスクマネジメントに対する積極的な取組が望まれる。

【評定】 中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 10 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成 23 年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われているが、教員等個人宛ての寄附金について個人で経理されていた事例があったこと等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 学生の「主体的な学び」を支援することを目的とした 1 年次生向け教養科目「大学生基礎力ゼミ」を開講し、大学院生が図書館ラーニング・アドバイザーとしてレポート作成等の支援を行うなど、大学生としての基礎的な知識、技術等の修得を図っている。
- 新たに設置された大学改革推進会議の下、サステイナブルな経済成長を支えるグローバル人材を育成するため、理工学系研究科（大学院修士課程）及び総合工学系研究科（大学院博士課程）における 5 年一貫の教育プログラム「サステイナブルエネルギーグローバル人材養成プログラム」を設置するとともに、分散したキャンパスを克服し大学の特徴・強みを結集して研究専念教員を配置する「グローバル研究機構」の設置計画等を策定し、準備を進めている。
- 「国際科学イノベーション拠点整備事業」に採択された「世界の水を守るエコ・ナノカーボン研究拠点（仮称）」において、世界中の人にきれいな水を提供する高度自立水循環システムの構築を図ることを目指し、企業と共同で革新的ナノカーボン膜による高効率水再生処理手法の研究開発等を行っている。
- 産学官連携推進本部知的財産支援部門に配置した弁理士資格を有する職員を 1 年間、知的財産等を扱う民間企業へ出向させ、技術（研究）評価・産業化に向けた事業評価等についてスキルアップを図っている。
- 日本で初めて（アジアで 2 番目）欧州繊維系大学連合へ加盟し、連携大学院への学生の派遣・受入を可能とし、グローバルに活躍する人材育成の強化を図っている。
- 信州大学改革実現に向けた取組として、グローバル人材育成計画を策定し、平成 26 年度までに年間 200 名程度の学生を海外派遣することを決定し、平成 24 年度は「短期海外研修プログラム」（参加者 12 名）等の取組を実施している。

附属病院関係

(教育・研究面)

- 医学部において、グローバル化に対応したカリキュラム「150通りの選択肢からなる参加型臨床実習」を立案し、実習期間を世界標準の72週に拡充している。

(診療面)

- 外務省からの要請を受け、重篤な外国人患者を受け入れて樹状細胞療法を実施するとともに、樹状細胞ワクチンの海外への搬送を実施するなど、特色ある先進医療を活用した国際貢献を実施している。

(運営面)

- 「信州メディカルネット協議会」に新たに中継サーバを設置し、7病院12診療所と診療情報を共有することで、長野県内における質の高い医療提供に取り組んでいる。